



発行所 青山同窓会
新潟市関屋下川原町二
新潟 高校内
印刷所 オリオン印刷機
0252-83-2151

老いも若きも楽しい総会に

オークラホテルでもう一度

青山同窓会々長 鍵富 清一郎



みなさん、お元気で総会を迎えられ、おめでとうございます。昨年の夏は、初めての会場オー

クラホテルで、何かと準備のゆきちがひもありましたが、今年は、名譽挽回、ホテルも、同窓会幹事も、色々打ち合せをして張り切っています。楽しい再会の時を過ごして下さい。
さて、来年10月2日には、創立九十周年の式典を予定しています。いろいろな記念事業や、行事も、これから、計画が練られ、実行されますので、同窓各位には、ぜひご協力と、ご参加をお願いしたいと思っております。
毎年、若い人の参加も増えてうれしいことですが、年輩の人も、健康に注意して、老若交流の楽しい場の同窓会を盛り立ててゆきましよう。

来年は母校創立九十周年にあたる。現在学校、同窓会、PTA三者でその記念事業をめぐって具体的な検討が進められている。
一〇年前の八十周年では、青山会館建設、会津八一歌碑建立、三林輝夫(65回東京芸大講師)記念独唱会、青山八十周年記念誌、同窓会会員名簿改訂増補。それに記念式典十月十二日、記念祝賀会同日、市体育館が持たれた。現在、九十周年記念事業として

同窓会よりヤマハグランドピアノCSⅡ奇麗済み、ピアノ開きを兼ねた記念演奏会、記念講演会、青

校、同窓会、PTA三者からなる

昭和五十七年十月二日式典を予定 母校創立九十周年の年

校内幹事60回 上杉 雅之

候補に上っている事業は、第二体育館、格技場、建設、音楽教室完成に伴うピアノ購入(すでに青山九十周年記念誌、同窓会々員名簿改訂増補、山九十周年記念誌、同窓会々員名簿改訂増補、クラパ活動振興基金、記念式典十月二日、母校体育館、一〇〇周年という大きな節目の



ラグビー部 第34回総合体育大会で優勝

賞状をもつ山田主将
優勝旗をもつ前川副主将

実行委員会が発足し、具体的な活動に入るようになってい。この世の中、無から出発しようというこの記念事業のため同窓会諸兄弟からも多大の御援助を得なければ表現不可能なことです。何卒よろしくお願い申し上げます。



大正五年から十年の五年在学中校長は小平高明、三根円次郎、校長代理安川数太郎、事務取扱伊藤昌庸、八木光貫の五先生であった。卒業以来すでに半世紀をこえ、すべてが故人となられ、教え児の大半も鬼籍に入つてすべて茫々たる人世の夢のかたとなつた。憶えばまことに感慨無量である。母校も今は往昔をしのぶすがにとほしく青山の松の緑、肅々たる風の音に追懐の念をかきたててみるにすぎない。大正から昭和へ移るまで歴代校長にも偉大な業績と卓抜した風格を思い起させる方々が多数である。
当時も、県下第一の中学校である誇りと自負を生徒が持っていたことは当然ながら、校長も天下有数の傑出した教育者であると思ひ畏敬の念で接していたことは事実である。生徒は常に質実剛健のモットーをふきこまれ、学びの業はアゼンスの尚武の風はスパルタのと文武両道を鼓吹されていた。しかし、一方若気の至りとはいえず先生に綿名をたてまつり腕白者の横行もあつたり、遂に誤つて同盟休校、ストライキと不穏な行動に走つたことは慚愧にたえぬことであつた。
小平校長の綿名の一つが消しがめというところを上級生から聞いたが、生徒の燃え立つ運動部の活動

(2面へつづく)

明治・大正・昭和を生きたる

青山同窓会副会長
28回 阿部 藤策

（上面よりつづく）

を抑える意味と知って、体操が校長自身の如何なる発意からか不可解に思われた。体育に消極的という誤解は著書強化をきらう生徒によくおこる。小平校長はむしろ体育について積極的な考えを持ちいるるの影響がその後に起きていたことを忘れてはなるまい。極東オリンピックの選手、斎藤兼吉氏がが校庭で陸上競技のコーチをされたのはその頃で、新潟中学院上競技の黄金時代の到来がやがてであったのはよく知られている。小平校長が運動や体育に消極的であったかどうか筆者には不明である。大正七年四月、小平校長に代つて秀才教育をモットーとする三根円次郎が着任した。息子のディック三根は現在あまりにも有名であるが当時も歴代校長中異色ある教員であった。

おくやみ

長崎素明君 39回

新潟市西堀通九、長崎山真宗寺（大谷派）二十四世住職長崎素明君は今年四月十四日死亡、六月一日に同寺で葬が営まれた。

参会者は本堂に溢れ、君が生前、県・市の宗教界及び社会奉仕等に對する多年の業績をしのび、また日頃の温かい人柄を想い心から愛惜の情にたえなかつた。

なわ、当日日本山より僧正位が贈られた君は、母校新中を四年修業で旧制新潟高校にすすみ、次いで東大文学部印度哲学科へと直行、新中大の頃は色白で口数の少ない、端然として教室の席に正座している美少年であった。

我が青山三九会は惜しむべき同期の一人を失った。

戒名 翠泉院釈素明 合掌 (福山記)

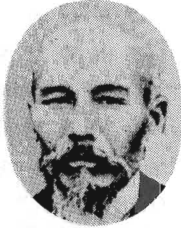
育者であり新潟中学の秀才教育に飛躍的發展をなされたのは実にこの人である。短軀矮身ではあるが眼光炯々として人を畏付せしめる風貌、言辭も明析で理路整然、教室ではさすがの腕白も凜然として高遠な哲理をうけたまわつていたように思ひ出す。東大哲学科出身、全国中学校長中屈指の偉材であつたこと、特に新潟県知事が山形から懇請して迎えたことなど、生徒にもその事情がよくわかつたので学風刷新の意気はたかまつてきた。職員も異動も多く教頭安川数太郎をはじめ後年、大学教員に転ぜられた先生が多く、にわかには学習の強化をひしひしと感じて進学準備の試験、テストの加重で翌年の新学期に入った。われらの上級五年生は旧制新潟高校の設立で即ち四年修了で受験合格したも

小平 校長



なりゆきや詳細のわからぬままに雷同して試験強化学力偏重に反対で同盟休校に突入した。閑居競馬場で放課後集合した四年生の殆ど全員は明日登校しない、家を出る時は平常通り登校といつて各人自由行動をとる。ポーター部員は自由に信濃川で練習、その他あまり集団行動をさける、と申合せができた。二日間のストライキは、しかし学校側の父兄召喚、主謀者の処分の迅速な対策でその收拾はあつけない程平静に終つた。授業も平静に復し、全員、始末書を書かされてその後の動揺もなく、四年生は主動者でなく附和雷同を諷められて軽い処分を終つた。この事件は一大不祥事ではあつたが世間の

三根 校長



反響もあまり大きくなく、今のマスコミ風潮と異つて父兄側も学校を信頼していたためにその波紋は局部的に沈静した。学校の年譜もあまりこれを取上げず後年の学校封鎖など性格は異なるが学校騒動の一大事件として扱われていない。しかし、三根校長はその責を負うて翌九年、退官、速く土佐へ去られた。当時の卒業生の大部分は三根校長の施策、秀才教育、真剣な学習活動の推進によつて、未だかつてない上級進学の成績があり、ひいては新潟県中学校教育の躍進がもたらされたものとその功績に多大の敬意を表している。八木光貞校長は大正九年四月着任。東大哲学科、山口師範学校が前任。寛厚の長者の風格をそなえ堂々たる紳士であつた。

された。現職校長の死去はこれまででなかつただけに、このショックは在校生、卒業生を問わず哀惜の念ひとしおであつた。五年間に三回の校長更迭は生徒にとつて仕合せではなかつたのだ。が、校長それぞれの方針による教育をうけ指導に従つたわれわれは世界大戦、大正末期のデモクラシ

思い出の 三人の校長 28回 村田 汎 愛

の擡頭の中で成長した。剛毅沈着、妥協をゆるさぬ頑固一徹の反面、慈父の愛情を胸中に蔵して、青少年の前途を誤らしめざるよう努力された方々である。人それぞれに性格の長短はあつても、その教育信念が共通であつたことを思い、遠い昔のことながら、敬慕の念を禁じ得ない。

前号の会報に新任校長本間忍生のご就任の御挨拶が掲載されていたが第二十二代目とのこと。同期生阿部藤策氏が母校の校長になられたのは、第二十一回位だつたようだ。

頃は教員私底であつたのか、一年生の時は剣道の内尾政玄先生であつた。最初の授業の時「諸君が入学した本校の校長の名前を知っている者は」との質問に誰も手をあげたのだ。そこで「小平」は、「ゴダイラ」と呼ぶことを教えられた。「では出身小学校と校長の名をあげよ」との質問には皆答へ私も指名された時「豊照小学校、斎藤一」と答えると、敬称をつけなければいけないと注意を受けた。「」の呼び方も仲々むずかしいが、私は知っていたので大声で発し、やや得意であつたのだ。奇しくも斎藤一先生の末弟八男君は同級であることを後になつて知つた。小平先生には一年生の頃は体操を教えられた。まず準備体操の次は器械体操（鉄棒）で、懸垂は模範を示されたが、ふとつておられた小平先生は「尻上り」は無理だつたのか、組中の上手な生徒に代行させられた。これが終ると南側の通用門を通り、水道貯水池を巡り、砂丘を走りぬけ校庭に到着させられた。私など脚の不得意なものはハアハアいつていると先生は私たちを激励されるのか「君たちが砂山の松の木の間を走っている姿はまるで白虎隊のようだ」と口癖のように言われた。春秋、回行われた全校マラソンは一、二年組と三年以上の二班にわけて競馬場をスタートして行われたが、肥満の先生が下級組に参加され、ご自分のペースで走走された。校門のゴールに入られた時は大喝采であつた。二年生からは沢柳政太郎博士著の教科書を用いて説明して下さつた。当時は修身も試験科目に入つていて、ある時の試験の時「愛は諸徳の源泉であること」を例証せよ」という問題が出たことがあつた。教科書をよく読んでゆけば容易と出来るのに、修身などと軽視して苦しんだことを今でも思い出す。一年生の終る頃御転任になることになり、退任式が校庭で行われたが、退任の辞の中に「人生意気に感ず云々」と言われた先生の御心中、新潟中学を去り難い思いがあつたのであろう。次の校長先生は三根円次郎先生で帝大出身。黒い頬髭を蓄えられ眼光炯炯、近より難い感を受けた。修身の時間になると、クラス全員

(下面へつづく)

(2面よりつづく)

緊張、壇上の先生に敬礼。授業の内容は忘れてしまったが、論理学の講義のようなことを覚えていて、

旧制の新潟高等学校が設立されるので、受験熱を煽る気運が学校と共に父兄の間からも起り、受験勉強の強調が生徒の反感を買い、

教職の祝賀会の様子をテレビで放映された時、私は彼の両眼に光るものを見た。万感こもこも彼の心を打つたのであろう。先生は晩年

三人目の校長は八木光貴先生で帝大出身の長身のお方。大きな目の下部に黒いくまがあった。受験直前病気で断念、静岡県の父母の



八木校長

許に悶々の生活を余義なくされていた私は心境を手紙に託して八木先生に送り、御助言をお願いした時、巻紙に長々と激励のお返事を下さったことは忘れられない。

る。そしてその頃の私には大連や旅順やハルビンが遠い所であった。今でもそれは遠い所であるにはちがいない。しかし地球儀をぐるぐる廻してみても東京からみると遠くにある所は一杯ある。

昨日のことが思い出せないけれど何十年も前のことが昨日のこのように思い出されるのはふしぎである。ひょっとしたら、私が死ぬ前には、私が生まれたときのこと

た。相沢は豪傑であった。とにかく新中生のときに全日本中相撲大会で優勝したモサであり、彼が推されて、五年生で新中の生徒会長になった時に、それまで続いていた下級生いじめのガイタン演説なるものをびしやりと止めさせてしまった。誰も文句をいえなかつた。キタイスカヤの夜がなつかしい。しかし今ではそれも遠い所である。フランス語でかたりかてきたおばさんなどはもと遠い所へ行ってしまったであろう。満州からの帰り途には汽車で釜山まで旅をした。あるいは私の旅行クーポンがそうなっていたせいかもしれない。私は何の躊躇もなく平壤(今ようではピョンヤン)でおりた。そして話にきいていた妓生学校を見学に行った。その女の校長さんは親切にも二人の若い妓生を私の平壤見物の案内につけてくれた。

近づく遠く国々

41回 井上栄一 (東京在住理博)

私がいわゆる日本あるいは内地とよばれる土地からとへ出たのは東京大学の二年生の夏休みの時であった。数えてみればそれは私が二十一才のときであり、ゆく先は満州(今ようにいえば中国の東北省ということになる)であるが私は母からせびりとった二百円の

友人知己や、それから紹介してもらった人々を頼りにいわば漂然として、旅に出たつもりであった。私の乗った船の名は龍田丸といった。妹が心配をうな顔をして横浜の港まで送ってきてくれた。その船には売られてゆくらしい乙女たちもいた。

このように昔は遠い国々であったのが今では時間的には近くなつてしまった。私はここで距離と時間の関係を論ずる気は毛頭ない。

ハルビンにはハルビン学院の相沢潔がいた。彼もまた、私の新潟中学の同級生であり、小学生の頃から新潟小学校へ一緒に通った古い友人の一人である。そのほかに満州飛行機という会社が新京にあって、東大航空学科の先輩も数名いた。中には植木正平という津川出身の人もいた。なぜとはなしに満飛の人たちがごちそうしてくれた「鹿鳴春」という料理屋の名前が記憶に残っている。

満州も朝鮮も近い。しかし今の私にはそれは遠い国々なのである。船で会った乙女たちはどうしているであろう。

教職員の変動

転出(全自治)	転入(全自治)
教頭 早川 宏	教頭 榎湯昭夫
主任 金子彰男	主任 近藤 勲
主任 松原昭然	主任 田村真佐夫
主任 小田一彦	主任 藤木隆男
主任 本田 至	主任 松本達夫
主任 田宮敬子	主任 高体連田中栄三郎
主任 寺尾芳樹	主任 渡辺進治行
主任 小田 彦	主任 佐藤茂子
主任 本田 至	主任 深沢 弘
主任 新沼高全日制	主任 教務助手大原美恵子
主任 新沼高全日制	主任 非常勤書田中郁子
主任 新沼高全日制	主任 転入(通信制)
主任 新沼高全日制	主任 田宮敬子
主任 新沼高全日制	主任 寺尾芳樹
主任 新沼高全日制	主任 小田 彦
主任 新沼高全日制	主任 本田 至
主任 新沼高全日制	主任 新沼高全日制

盆栽づき合い

67回 星野 清
博報堂 新潟支社

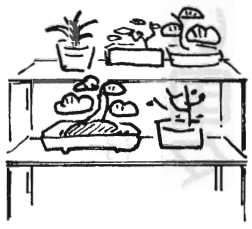
新潟に転動して来る前、まだ春日部に住んでいた時、私の隣家に盆栽好きなおじさんがいた。この人は実物盆栽ばかり、それも樹令がかなりあった、みごとな古木ばかりを集めている人だった。この人から貰った、ウメモドキの盆栽に、今年はじめて花が咲いた。花といつてもこの花は、およそきれいと云えない。小さい上に、色もささなく貧相な花だ。しかしこの花が、秋ともなると美にきれいな紅い実に変わる。盆栽好きはそれを楽しみにして、せつせとたいせにする。こうしてみると、私の棚には、このおじさんから貰った鉢が多い。当時私は、單月を主に集めていた。この人のお陰で結構私のコレクションも、バラエティに富んだ。丁度今の季節、サクラソボのような紅い実を、点々とつけているユスラウメ。濃い緑のまだ小さいが、ひょうきんを感じの実をつけた、深山カイトウ。ウメモドキに似て、全く花のさえない、しかし、晩秋熟した実からあざやかなだいたい色がはけるマユミ。なんとなくユーモラスな形の実をつけたチヨージユパイ。皆さん、くだんのおじさんから貰って来たものだ。若い頃から、

皮の袋物を作ってきた、いかにも職人氣質の、素朴で飾り気のないおじさんとの、垣根越しの盆栽談話を、今しみじみと憶い出す。自分のコレクションの中になく前から欲しいと思っていたんだと云って、私があげた、ナツメの鉢植えを子供のように喜んでくれたおじさん。

私はゴルフをやらない。酒もあまり得意でない。広告会社に勤めていると、盆栽なんぞいかにも老人趣味だと笑われる。人と人とのコミュニケーションを、大切にしなければならぬ広告会社ではむしろ、ゴルフや酒をやる方が、仕事の足になる場合が多いようだ。しかし、盆栽を媒介としても一風かわった、ビューマンリーションができる。

今も植木の下草として、すき通るような緑と白との彩やかなコントラストを見せる、斑入りシヤガ。これは東京で出版社の役員をなさっていたS氏にいただいたもの。お礼に差し上げた姫中原ツツジ。そのピンクの端正な花は今年もS氏の庭を、にぎわしたのだろうか。新規開発得意先として通い始めた私の求めに応じて、快く口座をひらいてくれたのはこのS氏だった。

それから、私の勤めている社の常務をされ、現在退任したI氏との出会い。氏は盆栽ばかりでなく書画骨董等にも造詣が深く、そんな話しを、氏の物静かな人柄のままに、たんたんと語ってくれた。そのI氏がある時「星野君、これを育ててくれ」と云って、三粒ばかりの種子の入った袋を私にくれた。「何の種子ですか、これは「ナンジャモンジャの種子だよ。」



「えっ！ ナンジャモンジャですか!?」私はその時はじめて、ナンジャモンジャなど云う名前を知った。I氏の説明によると、これはヒトツバタゴという樹の別名という。或る時、或る殿様が、見上げるような大木を指して「あれは何の木か?」と家来に問うた。その時、その名を知らなかった家来はどききに「あれはナンジャモンジャの木です」と答えたと云う。これがそもその由来らしい。私はこの種子を植木鉢にまいた。発芽まで一二年はかかるとI氏に聞かされていたので、ただひたすら水だけやり続けて、おおよそ半年、ようやく発芽。この事をI氏に報告したら「そうか、発芽したか、これからも大事に育ててくれ。実は東京にナンジャモンジャの会、というのがあって、年に一回神宮外苑にあるナンジャモンジャの大木の下に会員が集まることになっている。君も今度連れていこう」とのお話し。私は「是非よろしく」と申し上げて、その事を楽しみにしていたが、その後、急な事情で新潟に転動した。それでどうとうこの会には出席していない。I氏のような趣味人が大勢、ナンジャモンジャの木の下に集まる――その事だけ考えても実に愉快だ。趣味の会というよりユーモアの会

半、ようやく発芽。この事をI氏に報告したら「そうか、発芽したか、これからも大事に育ててくれ。実は東京にナンジャモンジャの会、というのがあって、年に一回神宮外苑にあるナンジャモンジャの大木の下に会員が集まることになっている。君も今度連れていこう」とのお話し。私は「是非よろしく」と申し上げて、その事を楽しみにしていたが、その後、急な事情で新潟に転動した。それでどうとうこの会には出席していない。I氏のような趣味人が大勢、ナンジャモンジャの木の下に集まる――その事だけ考えても実に愉快だ。趣味の会というよりユーモアの会

山男の航海記

76回 樋口秀夫
川崎汽船1等機関士

と云う方が適當のようだ。集まつた人達の高尚な談笑が、ほのぼのとして眼に浮かぶ。新潟にあつてもこのナンジャモンジャは元気に育っている。I氏とやりとりする賀状には、自分の近況よりこのナンジャモンジャの近況を書く事にしている。もちろん出版社のS氏とも葉書きで話し合っている。春日部のおじさんとは、女房が毎年、笹団子を送つてやるほどの仲だ。

こんなつき合いもまた好いものである。そして、こんなつき合いもまた、大切にしていきたいと思つている。

新高山岳部を卒業して十九年、山とは無縁の船乗り稼業中。山の仲間からよく言われました『山登りをしていて商船大へ進もうなんてお前はアホか。もつと口の悪い友人は「お前の乗つた船は必ず

や山に登るであらう!」などと言ひ、大学合格祝ひも冗談でケリ。東京での大学生生活は山のやの字も出て来ない生活で、明けても暮れても勉強はそつちのけでカッター(短艇)ばかり漕いでおりました。大学が下町の深川にあり隅田川の河口に面していた為、晴堤埠頭の練習、そして隅田川を溯つて浅草橋やお茶の水までの遠漕。夏休みには大島伊豆へのクルージング……まさき潮気たつぷりの四年六ヶ月でした。

それも双眼鏡を覗く度に大きく一杯に広がります。神戸出発後十四日、北太平洋の低気圧とそれに伴う時化で心身共に疲れていたのが、その双眼鏡の中を通して外へ抜けて行く様でした。加えて何もう声が出ないのです。他の学生達も同じ様にただ黙つて近づいてくるとアア島を眺めていたと記憶しています。人間と言うものは、やはり陸上に棲む動物なのかも知れません。ホノルルでの五日間、出来るだけ数多くの名所を廻りましたがそれ程印象に残っている所はありません。ただ、ワイキキの海岸で日光浴をしていると、日本から来た団体旅行のおじさんでしよう、揮一つで水浴びをしていたのですが、どこからもなく同じ制服を着た一、三人のアメリカ人に連れ去られました。ところがどうでしょう、小一時間もするとそのおじさん、頭をかき乍ら今度はおじさん、頭をかき乍ら今度は鮮やかな海水パンツで現われました。日本人だらけのホノルルでもここはやはりアメリカだったのです。ホノルル出発後、首にかけてもらったレイを海に投げ入れました。これが島に流れ着くとどうう度ハワイに来れるのだそうです。その二年後、再び来島しました。海に投げたレイが島に流れ着いたのでしよう。

次の寄港地は南太平洋ポリネシア、アメリカ領サモアのツツイラ島バゴバゴです。穏やかなエメラルドグリーン色の海と強烈な日差し。鏡よるダイヤモンドヘッド視認

の卒業航海で、ハワイのホノルルでした。ホノルル入港前、始め船内のラジオからかすかに聞こえていたジャズ、このジャズの音が段々と鮮明にしかも強烈な音となって耳に入ってきました。そして双眼鏡によるダイヤモンドヘッド視認

そして南十字星は、映画「南太平洋」を思い起こさせました。ここでは思いきつて原住民の乗るバスに乗り、とにかく行く所まで行ってみただけです。バス停などはありません。手を上げさえすれば止りません。露店の前で止り、何人が降りて買物をします。その買物が終るまでバスは待つていてくれるのです。次にジャングルの中にバスは入って行き、とある小屋の前には止まりました。何とこの小屋は乗客の一人の家だったのです。明らかに本線から外れていますが、いや恐れ入りました。そしてその日どうやって船に降り着いたのか全く記憶になく、船に降り着いた時は全身泥だらけ。しかも帰船時間遅れ(五分の遅れ)による当直士官のお説教が待ち受けていました。今でも時々思い出しては苦笑します。

南海の土産を一杯に一路内地までの航海は、心なし船のスビードも上るようです。途中南島島沖では島の南端で大きな日章旗を振る気象観測員を認め、汽笛を数発鳴らしました。我々学生も総員で声を出し手を振り、観測員も日の丸をジープに乗せ、どうとう島の北端まで追いかけて来たのでした。あの日章旗の鮮やかさ、今もって喉に焼きついています。そして四十日余りもの遠洋航海も終りに近づき、野島崎灯台の灯を見た時の嬉しさは何とも言い表わせませんでした。

テレビ新潟に入社して

71回 山本俊介 テレビ新潟放送網

先日四月二十一日は、放送広告の日であった。これは日本民間放送連盟が、市民生活に密着したコマーシャルの有用性・社会性を広く一般に理解してもらう目的で、設けたものであるが、これを記念して同日、特別番組として、放送広告が全国一二社の民放すべてのチャンネルで放映された。そして、この番組の中で、日本で一番目に誕生した最も新しいテレビ局、我がテレビ新潟の姿が、かなりの長時間に亘り紹介されたことは、私にとりて感慨一入のものであった。

昨年十月に会社が設立され、僅か半年で開局した(通常一年から一年半はかかる)テレビ新潟に参加して、この数ヶ月無二無進んできたが、初体験の仕事でしかも全くの未知の長岡、加えて先発一局の堅い牙城の中で、いささか心細くなっていたのでの放送広告の当社紹介は、壬天に慈雨、例えていえば奥山でバッタリと人に出会った様な感じであった。

ついでに言わせていただく、長岡という所は非常に商売のやりにくい所で、特に外様に対しては生半可な事では、心打ちとけてこない。総じて県民全体にいえるこ

とであらうけれど、人間関係が出来ないと胸襟を開かない所なのだ。その代り一人人間関係が出来るとどんな無理でもきいてくれる。

ここで思出すのは、平目という魚の事で、平目は釣り糸を垂らしても、減多な事では引つかからない。そこで糸を引いては、もう一匹も引つかからない。じつと我慢をして一匹引つかかる迄待つ。一匹引つかかる後は面白い様に釣れる。しかも、針も飲み込んだ平目は腹の底の底迄飲みこんでしまうのである。

どうも長岡人は平白人種らしい。ところで、テレビ局に勤務して気が付いた事がある。テレビ族というのは意外と無趣味な人間が多いという事である。テレビを通して、ゴルフや麻雀なんかを見ているので、テレビ家も、レジャー型人間が多いのではないかと先入観を持っていたが、実際に接してみると、精々酒が飲めるくらいで、仕事一途型が多い。亭主は休日はゴロ寝という、平均的日本人像は最も近い存在なのではないか。ブームの作り手が、実は、ブームと最も縁遠い所にいるのだ。もう一つ面白い事がある。自分自身が、殆んどテレビを見なくな

つた事である。テレビチャイルド、長じてのテレビアダルトは、一日の終りをテレビで終っていたのだが、テレビ家になってからは先ず見ない。四六時中、テレビの事を考えているから、業務を離れた時くらいにテレビから解放されたいというせいなのか如何。もつとも最近、全般的にテレビの視聴時間が、若干減少してきているのだと思う。

物の本によれば、一般にテレビと受け手の関係を、大旨三期に分けている様だ。
第一期が所謂 Status Symbol であつた時代で、受け手は、日中どっぷりとテレビにつかっていた。メディアへの、新規参入者である送り手側も自己の存在を主張する為、何でも写して見せようとしていた。謂ればテレビ全能の神話の時代。
第二期は、テレビの利用法を考える時代で、又、タレントの衣裳や髪型の品定めや、演技演出から脚本の出来、不出来に至る迄、賑やかに評価する時期であつた。批評にも飽きた第三期は「心理的テレビ離れ期」つまり「国民的テレビ平均視聴時間は不変だが意識のレベルでは、テレビ離れしている」(NHK放送世論調査所)時期。受け手も漸く主体性を回復し、番組は厳しく選別される。現在は、この第三期にさしかかっているといえる。理由はともあれ、私も第三期の仲間入りをしているようだ。そこで、送り手側はあの手、この手と刺激を考案して

以前より積極的且つ能動的に、受け手に働きかける。(ここで、受け手から送り手側に、立場の変わった私としては、難しい所だ)
その模索の中から、新しい方向づけとして、テレビ新潟では、県民とのふれあいを大切に、YES MYシリーズとして「見る、から視聴者の「参加」する番組を、大巾に取りこんでいる。乞う御期待である。技術的にも、ステレオ・二ヶ国語・音声多重やENGカメラの採用等で、テレビは、まだまだ、面白くなりそうである。
又、八月二十一日には、今年で

貧乏旅行万歳

71回 高梨正武 (旧姓 朝倉)

カメラのタカナシチェーン

四回目を迎える、テレビ新潟のキータン局である日本テレビが系列局と制作する二十四時間テレビ「愛は地球を救う」という特別番組がある。これは、テレビメディアが、国民の幸福に真に結びつく事を願って、チャリティ募金を募り、これを基に、老齢者や障害者の為に役立つという福祉への姿勢を示すものである。テレビメディアの新しい可能性を追究し、同時に社会的役割を果たすというテレビの新しい方向にも、注目していただきたい。

最近よくに若い人達を同道して私の流儀を押しつけるという傾向にあり反省しておりますが、結構皆さんも金を使わず楽しんでくれている様です。先日も一週間程で、ハワイの休暇を楽しんで参りましたが皆さんお金はそれほど使わず楽しまれた様です。私の役割はもっぱら情報の提供です。市バスの乗り方や、ルートの話から始まり、現地情報の収集方法からしては変な？英語教室までと多様な活動を楽しみ旅になって来ました。お金のある方は旅行社のエスコートへ、お金のない方は私にご相談をなして、つけ上り気味で旅行社の利益をそこねてはクレームをつけられております。
売春ツアーで名高いマニラは、私にとっては最も物価が安くて親切にしてくれて、又音楽が楽しめるお気に入りの地の一つです。マニラ市民の足ジブニーは実に便利で安上りの交通です。又食事と酒の安さも魅力です。マリアッチを聞きながら飲むマルガリータならぬフィリピンビールの味は最高です。
先回のマニラ行きで、旅行者のナイトツアーで金を使い果して心細くなって、ホテルのロビーでボツンとしている同行の若者を見付け、私の行きつけのビアガーデンへお連れして安く楽しんでいただいたが、連夜マニラの若い女性達が飲みに来ていて賑わっているのを見て、彼は良き伴侶を見つけたらしく、翌日私にお礼に来て、自信に満ちた顔をしていたのがと

一昨年12月に古巣の新潟市に進出して以来、久方に同窓生の皆様方に再会できずに思いをしております。現住所は中浦原郡村松町。一杯でもアルコールが入ると新潟市民？になるという奇妙な生活を楽しんでいる毎日です。
生来真面目で、パイを食べたり、球をころがしたりすることを知らない私の唯一の楽しみは、日本脱出。日曜も休日でない私のこゝと、休みをせつせと貯めては、海外へ通っております。但し何分融通のきかない私の財布。年がいくと貧乏旅行がもつばらで、スニ

でも印象的でした。良い事をしたのか、悪い事をしたのか、私には判別つきがたい経験でした。
韓国での楽しみを教えてください。同窓生で現在某社の営業部長をやっている青田孝君だ。新潟から夜行で大阪へ行き、翌日大阪から「プーサン」へ。「プーサン」の「コーンバスターミナル」から高速バスに乗り「ギョングジュ(慶州)へ。韓国での地名人名の現地読みで最初は苦労させられた。慶州、全州、光州の漢字表示はどこにもない。あるのはローマ字とハングル文字のみ。「ケイシユ」と言っても通じない。最後にありあわせの紙にマジックで慶州と書いたら、老婆が親切に教えてくれた。「ギョングジュ」と。それ以来私は地名、人名は全て現地読みで通している。青田君から教わった韓国料理には郷愁を感じる。コンチネンタルブレイクファーストでしたり顔の私を汚ない街角の食堂へ連れて行き、朝のカルピタンスープとベテキムチ、オイキムチ等の定食を味わわせ、そのおいしさを覚えさせた。
彼と二度目に行った「チュウジユード」(濱州島)で食べた皿いっぱいのおわびとなつたこの味は忘れられない。夜になつて翌朝の飛行機が欠航の為、強制的にプーサンへ最終便で飛ばされて、戒厳時間間際にめくらめつぼう飛び込んだホテルで翌朝汽笛と列車入替えの音で目を覚まされ、二人で驚き非常階段が上がって見た懐かしい

(6面11頁)

新中卒業50周年記念三八回



第三十八回、昭和六年卒業者の集いを青山三八会という。今年は卒業以来満五十年というので「新中卒業五十周年記念」と銘打ち、去る五月十日、会員の田中松一君

人が2度行く金で3度行く。休みを貯めよう。上司や周囲に貸しを作り、いつでも休める様にしておこう。今、私が若い友人達に力説しているから。

そのうちリッチな旅行をしたいとも思いますが、失望が大きいのではと思います。最近では女房までが私のプアー旅行に便乗して来る始末で、楽しんでいません。

が経営する田中ホテルで第六十四回三八会を開催した。

五十年という長い文句が効いたのか、何と県内開催では空前の三十六名が参集し健在を確かめた。会場のあるじが会員ということとは有難いもので、広間には特に江川蒼竹氏の書になる「朋友」の大額が掲げられ、ご馳走は鯛の尾頭付という出血のサービスで祝っていた。折箱をぶら下げてオカカ孝行まで出来たという。正に三八会ならではの歓待を受けた。当然の無礼講として、常に床柱を背に坐る加茂市長の皆川良一君も、トヨタの大社長等々力英男君もこの会ばかりは末席で杯を傾けていたのも印象的。その等々力君からは特に発言あり、四月一日から新潟総合テレビTNを開局する苦心談、会員各位の協力をたのむとの開陳があり、感銘を与えていた。

歓迎、痛飲すること三時間半。例の如く「玲瓏の天」や「霞たなびく」で散会したが、今回は県外者にも呼びかけ、大五十年記念大会を伊香保温泉で開くことを約して別れた。

本年は卒業、十五年目という事で久しぶりで市外、巻、波勢屋で開く。二十周年の湯沢の時比沢山先生はじめ殆んど先生方がいらしたのだが、今回は横山先生お一人で残念。ただ遠路東京から白井、倉品両君が来会されたのには感激。その他珍らしい顔もみえて、まず例の大神宮様へ参拝の後、迎えるのバスに乗り込む。直行組も加わって総員、二十五名。



市外でやれば二次会のむだ使いもなからうという幹事の深謀も飲む程にブレーキが効かなくなり、決局中で三回も座敷を渡る脱線ぶり。なお又新潟へ帰ってからも「軒とは...四十代の働き盛り、飲み盛りの今や頂点か。しかしやはりかつてのように四五十名は集って欲しい。五十七年の新年会にはぜひご列席を。」

78期からのたより

東邦産業協常務 78回 五十嵐祐司

先輩、後輩の皆様ごにちね。我々78回は昭和45年卒業、昭和27年生まれの子のヤングの集団です。青山の歴史の中では皆様が記憶の高校封鎖事件の時の三年坊にあたります。又青山同窓会総会では「二、三年出席良好でサントリールを拝領している健気な期でもあります。」

学園紛争で世情乱れる時期にそれぞれ立場で精一杯青春に立ち向った仲間達だけに団結も強く、三二回位開催の同期会にも40〜50人の出席があり、現在は来年の90周年に向けて同期生名簿の作成にかかっております。53年度作成の段階では新潟市に約百二十名、県内に三十名、関東圏に百七十名、その他約五十名、不明約百二十名となっておりますが今回は如何なる結果となるでしょうか。何となくも全員に近い現況の確認をしたいと思います。唯、どの期でも同じでしょうが一年に数十名にのぼる転勤者がいる事が悩みの種ではあります。

特に文系の仲間が地元も多く、理系やモノ組では地元1〜2名しかいないところもあります。就職の関係でそうなのですが、残念です。又同期に女性が80有数名いたせいもあり、同期生カップルも10組誕生しております。余談ですが、仄聞するに現状では一期に百五十名近い女性がいるとの事。我々の子供が進学する頃には男女数が逆になるのではなかと考えるのも複雑な心境です。

今年も又、青山総会の季節がやってきました。例によりまして券の販売が始まると、幹事は夏の到来を感じるこの数年ですが、本年は昨年総会の事もあり、苦戦しております。最終的には同期諸兄の友情により昨年をクリアしたの参加が出来るものと期待(確信)しておりますが、年令的にも総会での先輩との交流が少い為、わざわざ総会に出なければ、二次会の同期会に出ればよい、との根強い空気もあり、特に我が期に近い諸先輩方の多数の出席をお願い申し上げます。又、総会自体も早慶戦の後のフイーバーとはいいませんが、一年に一度の総会が、新潟における、熱くなれるイベントを志向して行きたいなど若い我等は夢想しておりますが、唯、残念なのは、同期平石昭一君を不慮の事故で失った事です。毎年総会の終った7月26日の彼の命日には担任であった沢山厳先生をはじめ有志が彼の墓にもうでる事になっております。彼が逝くのはかくの如きの夏、正に逝くものはかくの如きか、昼夜をおかす、痛恨の気持ちをこめて、彼の冥福を祈り、78期の便りといいたします。

去る五月二十三日午後六時より三趣の食堂で本年度の総会が竹山諒君(59回)の司会で開催された。

会長挨拶、小島松一(40回)、経過報告は理事長広川彰憲(52回)副理事長会計結城俊郎(62回)より会計報告があり満場一致で承認した。柔道部の現況について立川克雄(72回・母校教師)より説明があり議事に入る。

一、新会長高橋是成(46回)承認の件
二、明年度総会には母校の現役も出席を願う件
以上、一件異議なく全員拍手を以って承認可決。
倉田平八郎君(44回)の乾杯の音頭で懇親会に入り、先輩後輩一丸となって和気あいあいの中に部歌、応援歌を一緒に歌った。気脈の一貫するものが盛り上った。

柔道部O・B総会

40回 小島松一

小生、会長在任中は殆ど広川理事長に一任し、何等な事もなく、深くお詫びする次第である。新会長高橋是成君は目下江南高校の校長で、彼が新潟中学校の時は母校柔道部の数々の誇り高き黄金時代、終戦後の主将で、全国を征し、戦後後母校を迎え、教鞭を執られ、柔道部の事情や、県内柔道界の状況にも精通しておられるので、うってつけの会長である。母校柔道部の輝かしい伝統を再現して、くれることを期待している。どうか諸兄のご協力とご鞭達をお願いする次第である。

来年の創立五十周年の記念事業の一つに、同窓会会員名簿改訂出版があります。具体的な方式、スケジュール等は、今後の実行委員会等で検討されますが、名簿の場合、その資料作りに大きな労力と時間が費やされます。大体十年毎の発行ですので、その間の異動も大きく、その消息をつかむのに、各期幹事ならびに母校事務局は苦勞しています。各期の幹事の方々を中心に、本日ご出席の同窓各位又、この会報を見た方々は、ご自分の近況と、お近くにおられる同窓の近況についてハガキで母校事務局あてにお知らせ下さい。せつ々の名簿、できるだけ正確なものを作りたいと思っておりますので、よろしくご協力下さい。

●名簿資料にご協力を

来年の創立五十周年の記念事業の一つに、同窓会会員名簿改訂出版があります。具体的な方式、スケジュール等は、今後の実行委員会等で検討されますが、名簿の場合、その資料作りに大きな労力と時間が費やされます。大体十年毎の発行ですので、その間の異動も大きく、その消息をつかむのに、各期幹事ならびに母校事務局は苦勞しています。各期の幹事の方々を中心に、本日ご出席の同窓各位又、この会報を見た方々は、ご自分の近況と、お近くにおられる同窓の近況についてハガキで母校事務局あてにお知らせ下さい。せつ々の名簿、できるだけ正確なものを作りたいと思っておりますので、よろしくご協力下さい。

キャンパス便り

母校現役 各大会で活躍

県下高校スポーツ最高のエヴェント総体に十八年ぶりの快勝で紫紺の大優勝旗は山田主将の手にしつかりと握られた。苦しい試合の連続であった。68・0新発田商工、28・9巻は何とか勝ち上った。しかしそれとても負傷者が多く、巻との前半6・6は大ピンチであった。準決勝が最大の山場であった。昨年末の新人戦で敗れている新潟商との対戦。今年はトラライの山は



No8 五百川のトラライ

ぎわに唯一一つのトラライ・チャンスをビッグアップで逸した。後半新潟商に焦りが見えはじめ、我FWは押し勝ち、攻めの形が出はじめた。後半十八分新潟商の猛攻をゴール前で凌ぎ切った。そして終了寸前にSO田中の好キックで攻め込み、新潟商ゴール前二メートルのラインアウトとなった。このラインアウトくずれのスクラムを、二度サイドアタックを試み、二度目にNo8五百川がゴールに飛び込んだ。ゴールは成らず同点でノーサイド。正に執念のトラライであった。

り、奇しくも十八年前総体の決勝で群がる新発田勢を蹴散らして九メートルの独走のトラライで逆転したCTB大沢新外科の姿に彷彿とするものであった。後半は新潟商反撃の出鼻をくじいた。我方の攻めでSO田中がゴール前に上げたオープンキックでなだれ込みスクラムをきめてダウンされたボールをNo8五百川が持込んでトラライ、更にゴール前のスクラムからサイドアタックして駄目押のトラライで八点。かくして14・0と新潟工をノートラライにおさえて輝く栄

優勝!! ラグビー

第34回総合体育大会 北信越は二連覇ならず

部長 59回 関根 彰 圓

抽籤の結果、勝利の女神は我方に微笑んだ。

いよいよ決勝。天下の新潟工が相手だが一歩も引けを取らなかった。FWは押し、BCは確実にタックルした。一進一退の間、新潟工をゴール前十五メートルで好捕したCTB山崎が、タックルされながらフォローしたFB前川にタ

光しっかりと握ることができた。石原監督はじめ部員一同は負傷で車椅子の部員隅木と共に数多くのOB各位と誉て指導を受けた池田斉・山中直樹両氏に感謝をもって喜びを演つたのである。

北信越大会は実に残念であった。新潟県開催でもあり是非ともV2を願っていたが、県総体での力闘は選手に負傷を更に深め、満身創痍で会場の黒川村胎内入りした。本場に精神力で二戦を闘いぬいた。誠に無念ながら初戦に不覚をとつた。新興の高岡南(富山)は技術的に劣るが、強絶な体力をもつて

光しっかりと握ることができた。石原監督はじめ部員一同は負傷で車椅子の部員隅木と共に数多くのOB各位と誉て指導を受けた池田斉・山中直樹両氏に感謝をもって喜びを演つたのである。

先んじて追いつかれ前半は4・4、後半中頃にPGでリードした。最後に逆転され、二連覇の夢は断たれた。しかし三位決定戦では立ち直った。重量FWの岡谷工(長野)によく闘った。多くのピンチを着実にタックルで防ぎ、前半GB山崎の好走でリード、後半ライ

先んじて追いつかれ前半は4・4、後半中頃にPGでリードした。最後に逆転され、二連覇の夢は断たれた。しかし三位決定戦では立ち直った。重量FWの岡谷工(長野)によく闘った。多くのピンチを着実にタックルで防ぎ、前半GB山崎の好走でリード、後半ライ

二丁枚の賞状と二つのカップ、それに優勝旗が一面。

二丁枚の賞状と二つのカップ、それに優勝旗が一面。

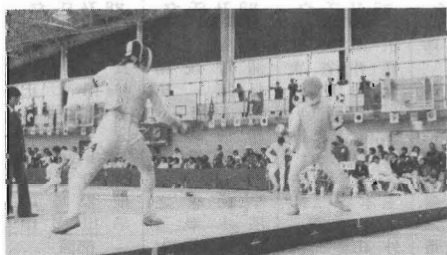
今年度の記録をたどってみると、インターハイ(全国高校総体)では、五十二年エペで遠藤聡一2位、五十四年同じくエペで石原基規6位、昨年フルール団体で、我校過去最高のベスト八進出を果たしました。その他、昨年の北信越大会では男子フルールで高橋芳弘が優勝、ミニ国体では団体男子(佐藤賢・神山明・山本真司現三年生)で優勝、栃木国体出場と常に上位の方に顔を出して来ましたが、そしてこれらの成果が、部活動にも活気を与えたことは言うまでもありません。

今年度の記録をたどってみると、インターハイ(全国高校総体)では、五十二年エペで遠藤聡一2位、五十四年同じくエペで石原基規6位、昨年フルール団体で、我校過去最高のベスト八進出を果たしました。その他、昨年の北信越大会では男子フルールで高橋芳弘が優勝、ミニ国体では団体男子(佐藤賢・神山明・山本真司現三年生)で優勝、栃木国体出場と常に上位の方に顔を出して来ましたが、そしてこれらの成果が、部活動にも活気を与えたことは言うまでもありません。

北信越大会優勝!! 全国選抜大会二位!

上昇気流に乗って

フエンスィング部



幸運なことに僕達は、このように先輩達が作り出した上昇気流に乗って、活気に満ちた部の中で練習をすることができました。しかも僕達の代は例年になく人数が多かったため、とくに同輩に対するライバル意識は旺盛でした。そこには、技術を共に高めてゆく大きな要素がありました。自分で言うのも何ですが最近の我フエンスィング部の技術の向上は著しいと思います。

その技術向上の原因として、たくさんさんのOB、コーチ、フエンスィング成年男子選手の方々の御協力に特筆すべきものがあります。昨年から今年にかけて、計五回の技術講習会や強化合宿がありましたが、それらはすべて、我校OBの県フエンスィング協会の原会長さんをはじめ、加藤理事長、籠島さん等様々な方々の御尽力によるものでした。夏休みや春休みをつぶしてまで元オリンピック選手を招いての強化合宿などは、とてもつらいものですが、僕達の技術向上のために、膨大な費用と時間を費やして下さいたことに対しては、深く感謝いたしております。

このように、最高の条件の下で練習を重ねてきた僕達のことについて言えば、僕達の代はひとつの頂点にきていると思えます。すでに先述しましたが、神山という主力を軸に、ミニ国体において優勝し、新潟県としては新潟国体以来十六年ぶりの国体出場を成し遂げ、五十六年春の全国高校選抜大会では、男子フルールで神山明が二位というすばらしい戦績をあげてきました。

そしてこのあいだの県総体は先述した通り。北信越大会では男子フルールで神山明が一位、梶原隆広が三位、山本真司が四位。女子

(8面へつづく)

フルーレでは中沢不二子が新潟の女子選手としては初の優勝。早福知子が三位、佐藤が五位と他県を圧倒して、これまたすばらしい戦績をあげました。



そして今、僕たちが目ざしているのはインターハイでの団体戦、個人戦いずれも上位入賞です。上昇気流に完全に乗りこえ、毎日毎日練習に励んでいます。この大きなチャンスをのがすわけにはいきません。

そして最後に一言、今夏八月水戸市で展開される僕達のインターハイでの目標、それはズバリ優勝です。

剣道部

全国大会へ!!

春季地区大会に於て、男子団体優勝、男子個人 優勝三年加藤公則、二位一年坂上遼樹、三位二年麻雄大、女子個人三位一年高橋麻

理子、の成績をおさめました。又、全国大会の予選に於ては、男子団体三位、個人一位に加藤公則(三年)が入り全国大会出場権を得た。又女子個人に於て、高橋麻理子が三位となった。

北信越大会に於ては、予選リーグ二位で敗退した。尚当剣道部としては、初めてインターハイに、個人ではあるが出場いたしますので、同窓、OBの各位の激励をよろしくお願い致します。

陸上部

県大会記録

男一〇〇米 二位
 近藤亘(三年)十一秒三
 四〇〇米 四位
 内藤淳(三年)五秒三
 四〇〇米ハードル 一位
 本間桂吉(三年)五六秒八
 四〇〇米リレー 四位
 山口、新田、坂上、近藤、四四秒〇
 一六〇〇米リレー 四位
 近藤、山口、本間、内藤、三分二七秒五
 女一〇〇米ハードル 六位
 倉田郁子(十六)六秒六
 男一六〇〇米リレー 四位
 山口、近藤、本間、内藤、三分二七秒〇

以上の結果
 一六〇〇米リレーインターハイ出場決定
 三年 山口孝、近藤亘、本間桂吉、内藤淳

水泳部

六月二十五・六の両日、柏崎市に於て行われた県総体水泳競技大会で以下の成績を収めましたので報告いたします。

波田野茂男(二年)
 百米平泳一位、一分十五秒一
 二百米平泳一位、二分四十六秒九
 以上いずれも自己ベスト記録

有川 徹(三年)
 百米自由形 四位 一分〇秒四
 二百米自由形 三位 二分十四秒〇

久住 毅(二年)
 百米平泳六位 一分十九秒二
 二百米平泳五位 二分五十四秒一
 四百米メドレーリレー(青肩・波田野・白井・高見) 六位 四分四十六秒六

中沢智子(二年)
 百米自由形 三位 一分八秒九
 二百米自由形 三位 二分二十一秒三、いずれも自己ベスト。

現在部員は、七月二十五・六の両日、長野市で行われる北信越大会及び団体予選会(新潟市西海岸プールで八月二日)を目指して、校内合宿練習を七月十六日、七月二十日に行います。折りを見てプールの立ち寄り、後輩を激励、助言下さいませれば有り難いとおもいます。

水泳部顧問 66回横瀬 功

大学進学状況

昭和五十四年度にスタートした国公立共通一次も定着。この春の成果は次のとおりである。

北海道大	54年	55年	56年
東北大	37	9	4
東京大	8	7	31
一橋大	7	10	21
新潟大	165	8	7
京都大	6	7	189
京都市大	7	5	189

私立大については、逐年、入学難の傾向になり、従来のような国立大、私立大の「掛け持ち」は現実にはむづかしくなった。

編集後記

今号では、例年にぎわうクラス会便りがめずらしく少く、その分依頼原稿による随想となりました。又、総体育大会では、ラグビー部の優勝をはじめ現役生各部の活躍が目立ちました。文武両道の伝統のもとで張り切っている後輩の一端をお知らせしました。

次号にはたかさんの投稿、楽しいクラス会だよりをお待ちしております。

上智	12	17	10
中央	54	51	43
東京理科	50	46	50
明治	44	38	37
慶応	45	52	36
早稲田	63	72	50
学習院	10	7	4
青山学院	18	24	16

昭和55年度青山同窓会費納入者追加分

(1月より3月までに納入のもの)

(郵便振替口座 新潟4455青山同窓会)
 第四銀行学校町支店口座 275210青山同窓会)

会費納入のお願い

年会費 1口 1,000円

できるだけ1人2口でおねがいします。

納入先 新年会・総会の会場
 又は母校同窓会事務所へ

期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名	期及氏名																																																																																													
28回 小原武一郎	河前入	辺田山	昌節芳	伍雄雄	村富	田秀	豊雄	古郎	侯辰	48回 川鳴村	義省欣	田井田	沢花塩	伏見	康衛剛	63回 長谷川	正正子	松橋	孝平	70回 森井	滋修																																																																																		
27回 内山山	淳一	30回 片桐	義礼	31回 中熊	藤静	32回 解山	順治	33回 大高	橋真	35回 寺田	利商	36回 若	博	37回 内山	黒	38回 石皆	山	一平	二平	39回 良	茂	40回 坂	根	41回 寺	田	42回 堤	清	43回 田	永	44回 本	藤	45回 青	久	46回 西	山	47回 朝	木	48回 田	村	49回 本	藤	50回 上	山	51回 厚	笠	52回 齊	藤	53回 菅	篠	54回 外	富	55回 伊	藤	56回 佐	岡	57回 磯	田	58回 阿	木	59回 早	渡	60回 難	柳	61回 藤	村	62回 上	西	63回 谷	田	64回 村	権	65回 安	大	66回 井	谷	67回 上	西	68回 田	林	69回 山	田	70回 植	小	71回 中	村	72回 石	黒	73回 木	勝	74回 小	五	75回 林	直	76回 谷	林	77回 田	文	78回 山	田	79回 山	田	80回 山	田